



地域包括ケア病棟のご紹介

8月1日より病棟3階に地域包括ケア病棟“ひまわり病棟”を開設しました。

「地域包括ケア病棟」とは、急性期の治療が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者様に対し、在宅復帰に向けて、リハビリや在宅支援など、効率的かつ密度の高い医療を提供する「在宅復帰支援のための病棟」です。在宅復帰支援計画に基づき、主治医・看護師・看護助手・リハビリテーションスタッフ・ケースワーカー・管理栄養士などが協力して在宅復帰に向けた相談、準備を行なっていきます。ただし、該当病床に入室後、病状等により最長60日以内での退院が原則となります。

当センターでは、その病棟に“ひまわり病棟”と名づけました。その由来は、ひまわりの花は太陽の方向に向いていくので・・・患者様を中心に、関わるすべての人が同じ目標に向かって関わり、安心してお家で暮らせるようにという願いからつけました。また明るく元気よく、大輪の花のひまわりのように地域の方と大きな輪になり、連携して患者様と関わるという意味でつけた病棟です。



患者様の作品で作成しました

退院にむけてリハビリを行なっています



ご紹介などのお問合せは、医療連携室までお願いします。

北福島医療センター 医療連携室 Tel 024-551-2101(直通) Fax 024-551-0104

CONTENTS



9月の職員勉強会 感染防止対策委員会「スタンダードプリコーションと感染経路別予防策」

地域包括ケア病棟のご紹介	1
新任医師のご挨拶	2
栄養科から 9月の行事食	2
第81回地域けんこう講座のご報告	3
登録医会のお知らせ	3
皆様の声を	4
中央クリニックよりお知らせ	4

新任医師のご挨拶

10月1日より、乳線疾患センターに安田満彦(やすだみつひこ)医師が着任しました。

平成26年10月1日より乳線疾患センターに勤務しております安田満彦と申します。よろしくお願いいたします。

私は 岩手県盛岡市の生まれですが、小学校、中学校は福島市で過ごしていました。中学3年から盛岡市に移り、岩手県立盛岡第一高等学校を卒業後、福島県立医大に入学しました。平成5年に卒業後は福島県立医科大学第二外科（現器官制御外科）に入局し外科の研鑽を積んできました。現在は乳線外科を専門として乳線疾患の、診断、手術、薬物療法を中心に診療しております。



こちらの病院には福島医大に所属時に非常勤の外来勤務でお手伝いさせていただいており、非常に雰囲気の良い病院だと感じていました。自分のスキルを生かすためにも、ぜひ北福島医療センターで君島先生の下で仕事をしたいと、以前から希望しておりました。この度ようやく願いがかない赴任の運びとなりました。

不慣れな点も多数ありますが、君島先生をサポートして乳線疾患センターをさらに盛り上げていけるよう、頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

栄養科から

9月の行事食は『寿膳』を提供しました。

患者様のご長寿を願って寿膳を提供しました。

ほっかほっかのお赤飯に、銀たらの照り焼き、山菜と油揚げの煮物、桃蜜ゼリー、香の物とコンパクトにまとめましたが、食べ応え十分との声が上がリ、おいしかったと病棟が明るい笑顔であふれました。

これからも患者様の喜びを引き出す食事をお出しできるように、努めていきます。



第81回地域けんこう講座のご報告

9月20日(土)午後2時より、オーチャドホールにおいて第81回地域けんこう講座を開催しました。

今回は、リハビリテーション科理学療法士大戸明文さんが、

『健康寿命を延ばす

～転倒や骨折をしない為に

…今、自分が出来る事～』について

講演しました。

健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を言い、年齢が上がっても、介護を受けることなく、自分の事はなんでも自分で出来る状態を続けるために、今、出来る事を、理学療法士の観点からお話ししました。

参加した約80名の会場の皆さんに、生活機能が低下していないか、簡単なテストをしてもらい、年齢が上がるに従い、筋力が低下するなどして、転倒が増え骨折などにより自立した生活を送りにくくなってしまいうこともあるので、いつまでも歩ける足腰のために、今から出来る運動の実践『ロコモーショントレーニング』について紹介しました。実際にやってみた会場の皆さんにも、簡単に続けられると好評でした。



理学療法士
大戸 明文 さん



ロコトレ1 片足立ち



ロコトレ2 スクワット
やり方を実際にやってみて説明

登録医会のお知らせ

●第12回北福島医療センター「開放型病院登録医の集い」

日時：平成26年11月20日(木)午後6時30分～

会場：ウェディング エルティ

講演テーマ：『全職員で取り組む感染対策』

講師：特定非営利活動法人 日本感染管理支援協会理事長

三重大学医学部附属病院 Infection Control Coordinator

東北大学医学部附属病院 感染制御 非常勤講師

土井英史先生

皆様の声を

当院では、皆様からのご意見・ご要望などをお寄せいただき、より良い病院作りをして参りたいと考え、正面玄関・病棟入口・各病棟談話室に「ご利用者の声箱」を設置しております。

お気づきのことがございましたら、ご遠慮なくご意見をお寄せ下さい。投稿されたご意見に関しましては、患者相談窓口で記録・保管し、関係部署に報告をして、検討、改善に努めております。

(平成26年9月)

食事のメニュー表の字が小さいと思います。

たまたま居合わせたおばあちゃんが、食事を楽しみにしていたようですが、メニューが見えずらく困っている様子でした。

この度は、貴重なご意見ありがとうございました。当センターでは、各病棟食堂に1カ月のメニューを掲示しています。メニューをご覧になり、食事を楽しみにして下さる方がいらっしゃることを嬉しく思います。確認しましたところ、文字が小さい上に薄く大変見づらい状態でしたので、早速、文字を大きくして表示いたしました。

栄養科では、入院患者様にお食事を喜んで食べていただくために、日々努力を続けています。

毎月の行事食に加え、9月23日のお彼岸の中日には、『おはぎ』を提供しました。



中央クリニックよりお知らせ

●糖尿病教室

10月17日(金)10:30~11:30「フットケア」～日本糖尿病療養指導士のお話～

●物忘れ教室について 毎月第4金曜日 11:00~11:30 全4回

10月24日(金)11:00~11:30「認知症とは(進行と経過・治療)」 神経内科医師

●ブランドメッセージ●

皆様とともに

「仁泉会」は、多様な医療・介護施設を擁し、お客様の誕生から晩年までをサポートしている「公益財団法人」です。医療・介護分野としては、福島県第一号の認定であり、「地域への貢献」が評価され、信頼されている証です。私達は「豊かな人間性」と「高度な専門性」をさらに追求し、すべては、皆様の健康と幸せを創造するために、努力し続けます。

●経営理念●

笑顔を咲かそう。

豊かな「人間性」と、高い「専門性」で、お客様と職員の「幸せ」という花を咲かそう。

北福島医療センター 理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域に信頼される病院を目指します。

北福島医療センター 「リエゾン」編集係
TEL 551-0551 FAX 551-0808

E-mail jmo@jinsenkaï.or.jp
URL http://www.jinsenkaï.or.jp